令和4年度 相模原市障害福祉関係の概要

◆障害者の状況(令和4年4月1日現在) ※合計欄の()内は前年同時期の人数

■身体障害者手帳取得者数

障害別内訳

視覚	聴覚	言語	肢体	内部	合計
1,275人	1,880人	179人	9,151人	7,141人	19,626人(19,835人)

等級別内訳

1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
7,467人	3,017人	2,539人	4,451人	931人	1,221人	19,626人(19,835人)

■知的障害者数(判定別内訳)

最重度 A1	重度 A2	中度 B1	軽度 B2	合計
1,088人	1,117人	1,477人	2,838人	6,520人(6,282人)

■精神障害者(精神障害者保健福祉手帳 等級別内訳) ※令和4年3月31日現在

1級	2級	3級	合計
1,318人	5,978人	2,660人	9,956人(9,313人)

※精神障害者 16,259人(うち精神障害者保健福祉手帳所持者で自立支援医療受給者は7,360人)

◆令和4年度における障害福祉関係の予算及び主な事業の概要等

■市予算(一般会計)

令和4年度当初予算	令和3年度当初予算	対前年度増減額	伸び率
311,200,000千円	298,900,000千円	12,300,000千円	4.1%

■障害福祉関係予算

区分	令和4年度当初予算	令和3年度当初予算	対前年度増減額
社会福祉総務費(抜粋)	79,222千円	41,413千円	37,809千円
障害者福祉費	23,512,150千円	22,724,282千円	787,868千円
療育センター費	106,352千円	87,159千円	19,193千円
障害者支援センター費	281,309千円	280,622千円	687千円
児童福祉総務費(抜粋)	4,847,605千円	4,607,487千円	240,118千円
母子保健費(抜粋)	5,429千円	5,429千円	0
精神保健福祉費	1,963,084千円	1,879,714千円	83,370千円
合計	30,795,151千円	29,626,106千円	1,169,045千円

※社会福祉総務費：身体障害者福祉専門分科会・審査部会経費、さがみはら成年後見・あんしんセンター運営費、地域福祉推進経費、成年後見制度利用促進事業、福祉従事者メンタルヘルス相談事業

児童福祉総務費：障害児施設措置費・給付費

母子保健費：自立支援医療給付(育成医療)

令和4年度に実施した主な障害福祉関連施策

1 医療的ケア児等への支援

医療的ケア児等に対する総合的な支援体制の構築に向けた取組を推進した。

- ・4月から医療的ケア児等コーディネーターを配置した(緑・南障害者相談支援キーステーションに各1名ずつ)。
- ・医療的ケア児等の支援に関わる保健、医療、福祉、子育て、教育等の関連分野が一堂に会し、課題や対応策を協議する医療的ケア児等支援地域協議会を新たに設置した。
- ・医療的ケア児等が安全・安心に保育所等を利用するための「保育所等における医療的ケアの実施に関するガイドライン」を策定し、同ガイドラインに基づく相談を開始した。

2 踏切点字ブロック、ことばの道案内の総点検

令和4年4月25日、奈良県大和郡山市の踏切で、目が不自由な女性が電車と接触し、死亡する事故が発生したことを受け、本市では、踏切に設置している点字ブロックの総点検を実施するとともに、併せて、ことばの道案内のルート案内及び点字ブロックの総点検を行い、破損箇所の修繕を行った。

また、市役所周辺の点字ブロックを張り替えるとともに、一部のバス停で中乗りの点字ブロックを新設した。

3 合理的配慮の事例集の配付

市民や民間事業者に対し、障害ごとの特性や合理的配慮の理解を図るために作成した合理的配慮の事例集を6月に、約 5,300 の事業者に配付した。

4 高次脳機能障害に特化したパンフレットの作成

「見えない障害」ともいわれる高次脳機能障害の症状や対応について、具体的な例や挿し絵を用いて、精通していない方にも理解を図ることを目的にパンフレットを作成し、7月に配布した。

5 障害者ハンドメイド商品販売会の7月の実施

これまで障害者週間に合わせて市役所本館ロビーで12月に実施していた販売会を7月にも実施した。また、12月の販売会は日数を増やして実施した。

6 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の申請書の電子化

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の申請書を電子化し、8月に市ホームページに掲載した。

7 視覚障害なんでも相談サロンの開催

視覚障害のある方の生活をサポートするため、ピア相談や情報交換の場の提供等を行う「視覚障害なんでも相談サロン」を市視覚障害者協会のご協力により開催した。

日時 令和4年8月25日(木)から毎月第1火曜日及び第3木曜日 午前10時から

場所 視覚障害者情報センター研修室ほか

8 遠隔手話通訳サービスのテスト利用を開始

緑、中央、南高齢・障害者相談課において、パソコンのビデオ通話機能を使って、他の窓口にいる手話通訳者が通訳を行う遠隔手話通訳サービスのテスト利用を8月から開始した。

9 パラスポーツ体験会の3年ぶりの開催

東京2020パラリンピック開催を契機に、パラスポーツの体験と障害のある方との交流を通じて障害に関する理解促進を図ることを目的とした体験会を3年ぶりに開催した。

日時 令和4年11月13日(日) 午前10時から午後4時まで

場所 横山公園 人工芝グラウンド内(ねんりんピックかながわ2022と同時開催)

10 障害者週間に合わせた障害に関する理解促進

本市では、「共にささえあい 生きる社会」をキャッチフレーズに掲げ、障害に関する理解促進を行っており、障害者週間には、従前から実施している市役所や主要駅への横断幕の設置、バス車内のポスター掲示などのほか、今年度から公共施設等のデジタルサイネージにおける動画放映や商業施設等のヘルプマークのポスターの掲出など新たな取組を行った。

11 こころサポーター養成研修の開催

メンタルヘルスや精神疾患の正しい知識を持ち、地域や職場でメンタルヘルスの問題を抱える人や家族に対して、できる範囲で手助けする「こころサポーター」の養成研修を神奈川県と連携し、11月と12月に開催した。

12 重度障害者を受け入れる生活介護事業所の整備促進

令和5年度末までに3箇所の整備目標を掲げており、令和4年度は既存施設の改修事業として定員増(20名⇒30名)を図った。なお、令和5年度整備分については、7月から公募を実施したが、応募がなかった。

13 原油価格・物価高騰下における支援事業

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、次の事業について実施した。

(1) 重度障害者等特別給付金事業

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、食費、原油等の物価高騰下における市独自の支援として、令和4年7月1日現在、特別障害者手当、障害児福祉手当、経過的福祉手当又は特別児童扶養手当を受給している方を対象に、プッシュ型の特別給付金として障害児者1人当たり5万円を支給した。

(2) 相模原市福祉有償運送燃料費助成事業

福祉有償運送事業は、営利を目的とした事業ではないため、運送の対価設定が低く、燃料油の高騰は団体運営に大きな影響を与えていることから、市福祉有償運送の登録団体17団体に対し、負担軽減を図ることを目的に、価格上昇相当分の燃料油代を助成した。

(3) 相模原市高齢・障害者施設等原油価格・物価高騰緊急対策支援事業

原油価格・物価高騰の影響を受ける高齢・障害者施設等に対し、指定サービスの規模等に応じた支援金を給付することにより、施設等の安定的な運営の継続を図ることを目的として、支援金を給付した。

14 新型コロナウイルスワクチンに係る障害者向け集団接種会場の設置

令和3年度に引き続き、令和4年度においても、障害のある方が安心して接種を受けられるよう、専用の集団接種会場を設置し、接種の促進を図った。

15 松が丘園、けやき体育館（市社会福祉事業団）の取組

（1）手話通訳者養成事業新規講座の実施

日常会話習得を目的とする講座と手話通訳者を目指す講座との間を埋めるための「中級応用講座」を開設し、切れ目のない継続的な手話の学習機会の確保を図った。

（2）強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の実施

市内の事業所職員を対象とした行動障害の支援者養成研修について、受講のニーズに合わせて定員を増員(30名⇒50名)して実施した。

（3）パラスポーツ体験会の実施

けやき体育館において、障害者週間に合わせて、イベント(けやきウイーク)を開催し、パラスポーツ体験会や工作活動などを行い、今年度は、新たにVRチェアスキーの体験会を実施した。